

野生動物、ヌートリア、タヌキ、クリハラリス

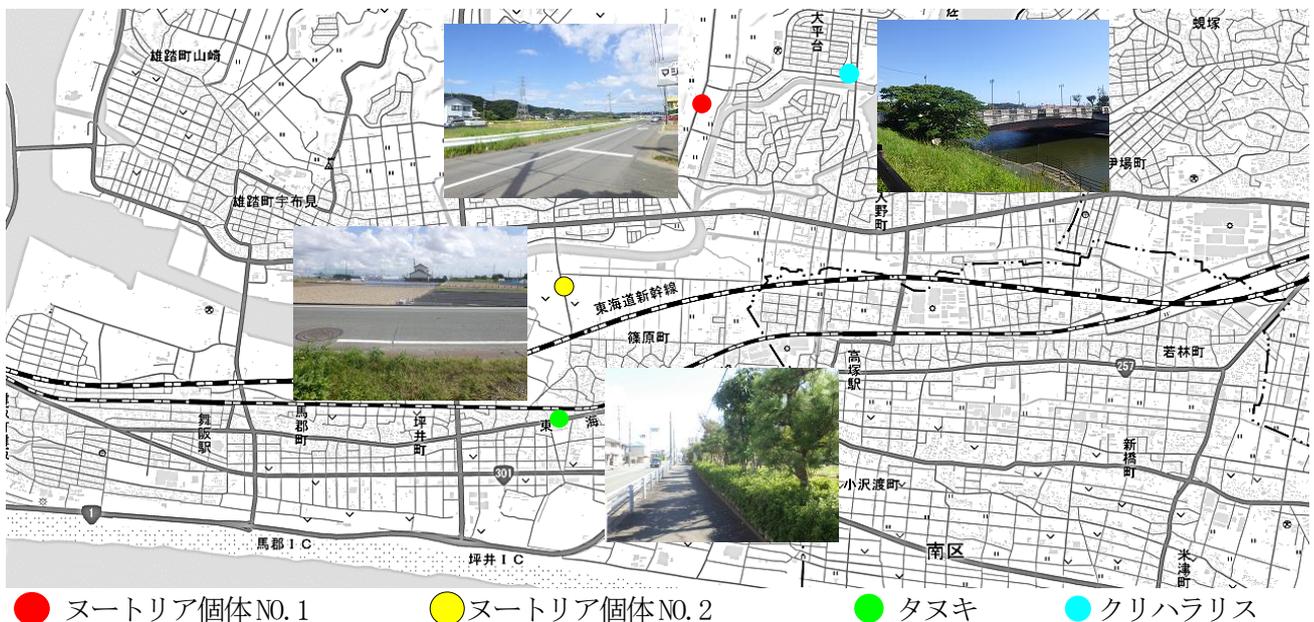
篠原小学校
6年 山下颯梧

1 動機・目的

今年は、ヌートリア2頭、タヌキ1頭、クリハラリス1頭の死がいを見つけた。私は、それらの死がいを研究したいと思って回収した。

これらについて、本で被害があることは知っていたけれど、本物の野生について見たことがなかったので、どのような生き物なのか知りたいと思った。そして、自分の住んでいる近くにもこれらがいることにおどろいた。

私は、自分の住んでいるところでこれらの動物がどのような暮らしをしているか知りたいと思った。また、どうしてそこで死んでいたのかを知りたいと思った。



ヌートリア



タヌキ



クリハラリス

2 ノートリア

(1) 生活調査

ア ノートリアの死んでいた周辺に聞き取り

個体No.1と個体No.2の死んでいたところの近くの家の人に、ノートリアを目撃したことがあるか、ノートリアがいつ、どこで、何をしていたかについて聞き取り調査をした。個体No.1について、聞き取りをした44件のうち、1件から目撃情報があった。個体No.2について、聞き取りをした1件から目撃情報があった。

イ 佐鳴湖公園に聞き取り

ノートリアの目撃情報がありそうな佐鳴湖公園に、生息していたノートリアの事について聞いた。

秋に見たという人もいたが、冬の1~2月にいた。大人のノートリア2匹と子どものノートリア4匹がいた。大人は50cmぐらいで、子どもは20cmぐらいだった。ノートリアは2月~3月頃に箱罠に仕掛けられたミカンでおびき寄せられて、捕獲された。ノートリアが特定外来生物のオオフサモを食べていた。ノートリアはその他の水草も食べている。2匹箱罠でとらえられた。

ウ 浜松市に聞き取り

浜松市に、ノートリアについて浜松市内での目撃情報を聞いた。

去年が35匹で今年は27匹捕まえている。佐鳴湖でメス1体と子ども4体を捕獲したが、オスは逃げていってしまった。戦争の時に毛皮用に輸入された。浜松市西区村楯という地域に多くいる。オスは子どもが生まれると、他へ行くため大体メスと子どもが捕獲される。捕獲した外来種は焼却処分する。

エ 湖西市に聞き取り

湖西市に、ノートリアについて湖西市内での目撃情報を聞いた。

農作物被害情報を聞いている。田んぼがたくさんある新居町や入出の水辺や、水路の多い出にいと聞いている。ノートリアは、米の苗の先の柔らかいところを好んで食べていると聞く。ノートリアによる野菜の被害もある。

(2) センサーカメラでの調査

目撃情報があった場所にセンサーカメラを置いて、野生のノートリアの様子を観察する。

使ったセンサーカメラ：ハンファQセルズジャパン製 型番DVR-Z0



- ① ノートリアの巣穴周辺
- ② ハクビシンが死んでいたそばのビワの木
- ③ 野生生物の足あとがあった畑
- ④ 野生生物の足あとがあった畑
- ⑤ 野生生物の足あとがあった畑
(浜松市西区)

場所	用と	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
①	公園	タヌキ	×	タヌキ	×	×	タヌキ	シジュウカラ
②	ビワの木	×	×	×	×	×	×	×
③	畑	ノウサギ ハクビシン タヌキ	タヌキ ノウサギ	タヌキ	タヌキ ハクビシン	×	タヌキ	×
④	畑	タヌキ	タヌキ	×	タヌキ	タヌキ	×	×
⑤	畑	タヌキ	カラス	カラス	タヌキ	タヌキ	×	タヌキ

(3) 死んだ原因調査

道路で死んだ個体No. 1 と個体No. 2 の死因を知りたいので解剖し、原因を調べた。

どこから分かる	どういう状態 (個体No. 1)	分かったこと (個体No. 1)	どういう状態 (個体No. 2)	分かったこと (個体No. 2)
全長	97 cm (70~100 cm)	大きさは平均	87 cm (70~100 cm)	大きさは平均
頭骨	折れていた	交通事故	折れていた	交通事故
いん部	損傷して無くなっていた	性別は不明	あり	性別はオス
すいぞう 内臓	すいぞうは無くなっていた 内臓が溶けてなくなっていた	事故からかなり時間がたっていた	無くなっていた	事故から時間がたっていた
泉門	泉門がないが、はっきりと分かる	若い大人	泉門がない	大人
胃と腸	溶けてなくなっていた	食性不明	※1	

(4) 何を食べていたか調べる

個体No. 1 は、内臓が溶けてなくなっていたため、何を食べていたかはわからなかった。個体No. 2 は、胃と腸から消化された内容物が出てきたので、その中からプラントオパール（植物の細胞を鋳型として作られる植物ケイ酸体）を取り出し、植物を予測した。

個体No. 2 が死んでいた周辺の植物イネ、ヨシ、ヤシを採取し、有機物を取り除いて、プラントオパールがどのような形か調べ観察し、胃と腸のプラントオパールと比べた。

※1

分かったこと	どこから分かる	どういう状態
イネ、ヨシ、ヤシを食べていた	胃と腸の内容物 プラントオパール	すり潰され、繊維状になっていたが、プラントオパールが残っていた。

(5) プラントオパールで出てきたヨシ、ヤシ、イネの分布域の調査

個体No. 2 の胃や腸の内容物からヨシ、ヤシ、イネがあった。これらの分布域を調べ、個体No. 2 の生息エリアを調べる。図鑑で植物を確認し、自転車でヨシ、イネ、ヤシを探した。



- 個体No. 2 の死んでいた場所
- ヨシ
- ヤシ
- イネ (田)

(浜松市西区)

(6) 考察

ヌートリア個体No.1の生活

ヌートリア個体No.1は死んでいた場所周辺の住民の聞き取り調査からレンコンやイネ、ヨシを食べて生活していたと考えられる。「オットセイが死んでいる」と住民の人が言っていたので、ヌートリアの存在が知られていないことがわかった。このことから、日中は人に発見されないように夜に活動していると考えられる。ヌートリアの目撃情報があるところにセンサーカメラをしかけたが、写らなかった。今回仕掛けたのは山の方が多かったので、ヌートリアが山は好まないと考えられる。佐鳴湖公園ではオスのヌートリアの目撃情報がなかったので、オスだけ他の場所に移動したと考えられる。

ヌートリア個体No.1の死因

ヌートリアNo.1は全身の骨が折れていたので複数回車にひかれたと考えられる。

ヌートリア個体No.2の生活

浜松市の捕獲情報と佐鳴湖公園での情報からヌートリア個体No.2は佐鳴湖で家族と6匹で暮らしていたと考えられる。佐鳴湖公園提供の写真ではオスのヌートリアが写っていないので、オスのヌートリアは他の場所に移動したと考えられる。オスは子どもが大きくなると別の場所に行く聞いたので、子どもが大きくなり、佐鳴湖から新川周辺で生活していたと考えられる。オス以外のメスと子どもたちは佐鳴湖公園に残って生息していると浜松市や佐鳴湖公園が言っていて、佐鳴湖公園では駆除をしているのでその家族は駆除されてしまったことがわかった。ヌートリアの目撃情報があるところにセンサーカメラをしかけたが、写らなかった。今回仕掛けたのは山の方が多かったので、ヌートリアは山では生活しないと考えられる。ヌートリアの胃の内容物は細かくすりつぶされていて、ハクビシンに比べ臼歯が発達していることがわかった。ヌートリアは、臼歯を使うことで食べ物をかなり細かくすりつぶすことができることがわかった。胃の中でドロドロに消化されていてもプラントオパールは残っていて、死んだ動物の食生活の調査に利用できることがわかった。

ヌートリア個体No.2の死因

ヌートリア個体No.2は頭が折れていたので車にひかれたと考えられる。すい臓が残っていたので死んでから、あまり時間がたっていないことがわかった。

ヌートリア個体No.2の食性

ヌートリア個体No.2の胃と腸の内容物の中にヨシ、ヤシ、イネのプラントオパールがあった。ヨシ、イネ、ヤシの生えている所を探したら、ヨシはほとんど新川や用水路の近くで集まって生えていた。佐鳴湖公園内にもヨシがあったので佐鳴湖公園にいたときもヨシを食べていたのかもしれない。ヤシは公園や民家に多かった。ヌートリア個体No.2が佐鳴湖から川を泳いで移動した時、佐鳴湖周辺にはイネは少なく川を少し下ったところに田んぼが多いので、イネを食べながら生活していたと考えられる。ヌートリア個体No.2の死んでいた所は田んぼが近くにある。そのため、ヌートリアは、水の近く、イネやヨシやヤシがある場所を選んで移動していたと考えられる。湖西市にヌートリアの情報が多いのは湖西市でコメが盛んに育てられているからだと考えられる。浜松市については、住宅地の中に佐鳴湖や川があり、その周りにヨシがたくさん生えているからだと考えられる。

3 タヌキ

(1) 生活調査

ア 死んでいた周辺に聞き取り

聞き取りをした19件のうち、4件から目撃情報があった。

イ 浜松市に聞き取り

タヌキは毎年捕獲実績数を確認していて令和2年度は71頭で、平成31年度は81頭で平成30年度は42頭、平成29年度は41頭だった。捕獲する理由は、農作物の被害防止や、住宅等の敷地における衛生面の確保(糞害等の防止)などだった。被害状況はデータをとっていない。

(2) センサーカメラでの調査

タヌキは午前1時、10時、18時に写っていたので、タヌキが1日中活動していることがわかった。佐鳴湖公園や畑にタヌキがいることがわかった。

(3) 死んだ原因調査

用水路で死んでいたタヌキの死因を知りたいので解剖をした。

分かったこと	どこから分かる	どういう状態
大きさは平均	全長	72.5 cm (63~93 cm)
性別はオス	いん部	あり
事故から時間がたった	すいぞう	あり
大人	泉門	泉門がない
何も食べていない	胃と腸	何もない

(4) 何を食べていたか調べる

胃と腸の内容物をアルコールにつけ、どのような物を食べていたのか観察したが、胃と腸からは何も出てこなかったため、タヌキは何も食べていないことがわかった。

(5) 考察

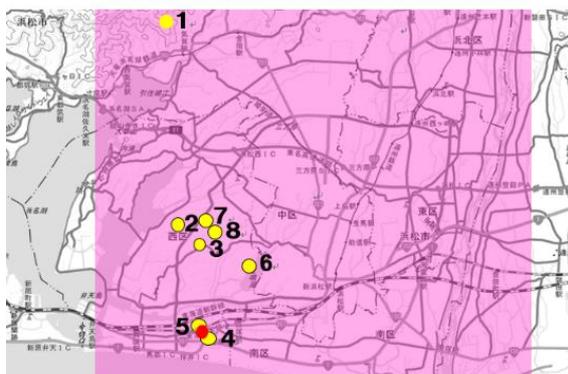
タヌキの生活

浜松市の聞き取りで浜松市中にタヌキがいて捕獲していることを聞いた。また、去年のハクビシンの聞き取りやセンサーカメラからも浜松市中でタヌキがいるのはわかった。動物の目撃情報があるところにセンサーカメラをしかけたところ、タヌキが写っていた。浜松市内のいろいろなところでタヌキがセンサーカメラに写っていて、市内全域に生息していることがわかった。センサーカメラに写ったタヌキは、同じところを行き来していたので、数頭のタヌキが同じ獣道を使っていることがわかった。タヌキのセンサーカメラに写っている時間が同じことから、毎日同じ予定で生活していることがわかった。タヌキがセンサーカメラに近づくこともなく、視線が合うことがなかったことから、センサーカメラに関心がなく、他の動物よりも警戒心が薄いことがわかった。胃や腸に食べ物がなにも入っていなかったため、数日間なにも食べずに空腹だったことがわかった。

タヌキの捕獲

平成30年度から令和元年にかけて捕獲数約2倍に増えていて、タヌキの捕獲数が増加している。捕獲する理由は、住宅等の敷地における衛生面の確保(糞害等の防止)なので、コロナウィルスが流行して外に行く人が減って庭などの家庭で過ごす時間が増え人々がタヌキの存在に気づいたと考えられる。

コロナウィルスが流行して農家の人が作った食材が売れなくなり、ゴミとして捨ててしまったものをタヌキが食べて味を覚えて畑をあらすようになり被害の増加、捕獲の増加になったと考えられる。



● センサーカメラでタヌキが確認できた場所

● タヌキが死んでいた場所

場所	いつ	周辺の状況
①	2020年	畑
②	2020年	ブドウ園
③	2020年	畑の裏
④	2020年	スイカが食べられた畑
⑤	2020年	畑
⑥	2021年	佐鳴湖公園
⑦	2021年	畑
⑧	2021年	畑

4 クリハラリス

(1) 生活調査

ア クリハラリスの死んでいた周辺に聞き取り
聞き取りをした5件中4件に目撃情報があった。

	いつ	地点	どこ	周辺の状況	何をしていた	
1	毎年	①	住民A	公園内全域	公園内	エサをあげた。たくさん見る
2	毎年	②	住民B		住宅地	たくさん見る
3	毎年	③	住民C	ミカンの木	住宅地	ミカンが食べつくされた
4	毎年	④	住民D	家の周り	住宅地	たまに見る
5	毎年	⑤	住民E	家の周り	住宅地	電線を渡っている

イ 佐鳴湖公園に聞き取り

佐鳴湖公園の湖畔に生息している。佐鳴湖公園のひょうたん池にはいつでもいる。



- クリハラリス死んでいた所
- クリハラリス生息域

ウ 浜松市に聞き取り

クリハラリスは昭和初期に家庭での飼育や動物園等での展示を目的に輸入されたものが逃げ出した。または、ペットが捨てられたことにより野生化した。浜松市内では、1980年ごろから野生化が確認されており、2018年の調査では、北区細江町まで生息範囲を拡大させていることが確認された。クリハラリスを捕まえる講習会を行っていて、クリハラリスについての説明やワナの付け方を教えている。講習会に参加した人は、市民ボランティアとして、ワナをしかけることができる。令和2年度は市民ボランティアが712頭、業務委託で2,055頭、合計2,767頭駆除した。クリハラリスは木の実の中でもビワや梅の実、ミカンを好んで食べる。捕獲した外来種は焼却処分する。

(2) センサーカメラでの調査

クリハラリスや動物が来ていると聞いた畑に設置したが、タヌキしか写らなかった。

(3) 死んだ原因調査

道路で死んでいたクリハラリスの死因を知りたいので透明骨格標本（特殊な薬で生き物の筋肉を透明化して作る標本。軟骨は青色、硬骨は赤紫色に染まり、解剖が難しい小型動物に有効で細かい骨の組み合わせも観察できる）にすることにした。

分かったこと	どこから分かる	どういう状態
大きさは平均	全長	97 cm (90～110 cm)
交通事故	頭骨	粉々に折れていた
性別不明	いん部	いん部はなし

標本が完成には時間がかかるため、今回は出来上がらなかった。

(4) 考察

聞き取り調査から中区で家庭での飼育で逃げたか、昔は中区に動物園があってそこから逃げたから中区に多いという情報があった。中区の浜松城公園の周辺から西区、南区にクリハラリスが広がっていったことがわかった。佐鳴湖公園周辺のほとんどの人がクリハラリスを見ていた。ヌートリアやタヌキと違い人をあまり避けていないことがわかった。佐鳴湖公園にクリハラリスが多く生息しているので、そこから他の地域に移動するところで車にひかれたと考えられる。聞き取り調査で10年もしくは7年前から10匹位クリハラリスがいたと言っていたことから、7年位前に佐鳴湖公園に移動してきたことがわかった。

6 結論

(1) ヌートリア

特定外来種のおオフサモを食べていることも分かり、特定外来種のヌートリアが同じ特定外来種の水草の駆除に役立っていることがわかった。しかし、その他の在来種や固有種、農作物で被害があることがわかった。このことから、日本で共存はできないので、ヌートリアを見かけたら浜松市に連絡し駆除を依頼する必要がある。しかし、今後更にこの研究を深めていくことで、駆除せずすむ方法を見つきたい。

(2) タヌキ

浜松市内では農作物の被害はあまり聞かなかった。タヌキは、在来種ですでにそれぞれの地域で人との共存が出来ていることがわかった。

(3) クリハラリス

聞き取り調査の中でクリハラリスにエサをあげている人がいると聞いた。また、ミカン等の農作物の被害についても聞いた。エサを与えている人に農作物の被害状況や特定外来種で生態系に影響を及ぼしていることをしっかりと伝え、エサを与えないようにすることが大切だと思った。また、野生動物はいろいろなウイルスや病気を持っているので、エサやりで近づくことで感染のリスクもあるので、そのことをしっかりと伝えることが大切だと思った。それでも理解してくれないならば、栄養のないエサを指定し、エサやりをした人はそれを与えればよいと思う。成じゅうが子どもを産むためには栄養が大事だと聞いたので人間が今まで与えていた分の栄養が減り、子どもが生まれにくくなることで全体の生息数が減り、農作物への被害が減少し、クリハラリスが自然に減少していくと思う。

7 感想

プラントオパールによる植物の特定は、有機物を取り除いた後のプラントオパールから消化された植物でも大体種類は分かるけど、よく似ている種類もあるので、植物の特定は難しいと思った。この研究を通して、いろいろな人の話を聞き、実際に解剖でヌートリア、タヌキ、クリハラリスの体をさわることによって、私の考えは変わっていった。私のヌートリア、クリハラリスの初めのイメージは、外来生物で害獣だから困った生き物だと思っていた。また、タヌキも害獣で困った生き物だと思っていた。でも、実際にヌートリアの話の聞いたり、解剖をしたり、図鑑で調べたりしたことで、私たち人間みたいに同じ生き物で、毎日一生懸命生きていることがわかって、とても親近感がわいた。解剖をするとヌートリア、タヌキの体は、心臓や胃、腸なども私たちと同じようにあって、すがた形は違うけどヌートリア、タヌキも私たちと同じ動物で、一つの大切な命だということがわかった。また、クリハラリスも計測したときにさわったら骨が体の中にあ

って、私たちと同じ動物だとわかった。ヌートリアやクリハラリスは、毛皮用やペット用などの人間の都合で外国から連れてきたうえに逃がされたから、がんばって一生懸命生活していただけなのに、人間の生活に被害が出ると害獣だと言われてしまい、駆除されることはヌートリアやクリハラリスのことも考えずに人間の好き勝手やっているようでかわいそうだと思った。特定外来種のヌートリアのことを、被害を受けている農家さんでも知らないということは、ほとんどの人に知られていないということがわかった。特定外来種は、日本に元々あった自然や、人間に害を及ぼすことがあるので実態をより多くの人に伝えていかなければならないと思う。ヌートリアやクリハラリスがいるのは知っていたが、身近にいて浜松市内でも、ここまで深刻な被害があるとは知らなかった。実際に被害がある農家さんだけではなく、私たち小学生や大人の人も興味を持たないといけない問題だと思った。クリハラリスが、中区を中心として都市部に広がっているひとつの理由として、エサやりをしている人がいることがわかった。かわいいう理由だけで無責任にエサをやることは、人間にとっては農業被害や環境破壊、クリハラリスにとっては駆除につながるのでエサやりをする人は人間のためにもクリハラリスのためにもならないということを知ってほしいと思う。特定外来種について、捕獲した後は焼却処分になるとわかった。そんな動物たちを殺さない方法として、捕獲をした特定外来種を集めた専用の動物園を作って、お客さんに栄養のないエサを買ってもらってエサやりをすれば生息数もだんだん減っていくし、特定外来生物の問題や命の大切さが伝わるのではないかと私は思う。

8 今後の課題

クリハラリスの透明標本がまだ途中なので完成させて、クリハラリスの体や死因について調べたい。ヌートリアとタヌキの毛皮なめしの作業がまだ終わっていないので続きを行いたい。また、前回の自由研究でハクビシンの毛皮を作製したので、その毛皮と比較し使用方法や活用方法を考えたい。今年拾ったタヌキは冬毛だったので、夏毛のタヌキも拾えたら毛皮の違いを調べてみたい。聞き取り調査で、ヌートリアは土管をねぐらにしているかもしれないといっていたのでねぐらを探してみたい。駆除したクリハラリス、ヌートリア、タヌキは焼却処分されるそうなのでなにか活用できないかよい方法を考えたい。ヌートリアがセンサーカメラに写らなかったのも、他の場所でもカメラを設置して生きているすがたを見てみたい。この他にも、いろんな実験をしてみて今よりももっとハクビシン、ヌートリア、タヌキ、クリハラリスのことを知りた。それで、わかったことから私なりの人間と野生動物との共存の方法を考えていきたい。